

セタシジミ資源の概況調査

井戸本 純一

◆背景・目的

漁獲量が減少しているセタシジミの資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進の基礎資料とするため、琵琶湖一円の漁場で実際の漁船漁具による採集調査を毎年実施している。

◆成果の内容・特徴

- 毎年、産卵期直前にあたる5月に漁業者に依頼して主要7漁場を含む20水域で貝桁網を一定時間曳網し、単位面積あたりの漁獲サイズ（選別前の非漁獲対象サイズを含む）のセタシジミ採集数および体型組成を調査している。
- 2004年5月11～12日に調査した結果、主要7漁場における1㎡あたりのセタシジミ採集数は平均1.87個体/㎡（3.7g/㎡）で、昨年度の平均1.25個体/㎡（2.4g/㎡）より増加傾向が見られた。
- 上記漁場において殻長20mm以上の個体が占める割合は、個体数で6.0%、重量で12.5%となり、平成15年度の3.2%および3.3%より回復し、平成14年度と同等の値となった。

◆成果の活用・留意点

- 漁具による採集は定量性が低いが、過去の実験結果では貝桁網の漁獲効率はおおむね50%であり、生息密度は上記採集数のおよそ2倍と考えられる。
- 産卵の主力と考えられる殻長20mm以上の個体の生息密度が、やや回復したとはいえ、1㎡あたり0.2個程度と依然低い水準であり、現状では自然繁殖による資源の回復が困難であることが危惧される。

表 貝桁網による主要漁場における単位面積あたりのセタシジミ採集数

水域名 (主要7漁場)	1㎡あたりの採集個体数	
	2003年5月調査	2004年5月調査
沖島南西	1.30 (0.01)	0.79 (0.01)
沖島西	0.51 (0.01)	2.60 (0.02)
沖島東	1.87 (0.06)	2.97 (0.21)
松原	0.62 (0.08)	1.30 (0.32)
磯	1.79 (0.01)	2.22 (0.02)
長浜	0.92 (0.04)	2.01 (0.08)
今西	1.71 (0.04)	1.18 (0.05)
平均	1.25 (0.04)	1.87 (0.10)

()内は殻長20mm以上の個体数